

令和7年度ひろしま自然保育推進事業 活動報告書

○活動報告書は、HP で公表しますので、公開可能な内容としてください。
○データのサイズは、写真を含め、8M以内に収め、ワード文書にて提出してください。
○こちらの報告書フォームに沿って全て記入してください。

令和8年3月26日

広島市東区牛田新町4丁目1-1
学校法人 比治山学園
理事長 木谷 健
(比治山大学短期大学部附属幼稚園)

1 活動報告

【4月～6月】(春季)

- ・プランター用土づくり・畑の草抜き
- ・夏野菜の苗植え・種まき (プランター)
- ・アサガオ種まき
- ・じゃがいも・たまねぎ収穫・調理
- ・梅の実収穫・梅シロップづくり
- ・サツマイモ苗植え
- ・ビオトープ観察会
- ・びわ・グミ収穫

【7月～9月】(夏季)

- ・夏野菜の収穫
- ・夏野菜でカレー作り
- ・ビオトープ観察会
- ・秋じゃがいも植え付け

【10月～12月】(秋季)

- ・サツマイモ収穫
- ・大学散歩 (木の実・落ち葉拾い)
- ・木の実や落ち葉を使った製作
- ・遠足 (森林公園・植物公園)
- ・タマネギ苗植え
- ・ざくろ収穫
- ・大根種まき

【1月～3月】(冬季)

- ・雪遊び
- ・氷づくり
- ・じゃがいも植え付け
- ・大根収穫・調理

活動報告（詳細）

1 シーズンにつき最も印象的だった活動のエピソード1つご記入してください。

エピソードは、活動プロセス、保育者の関わり、子どもの育ちの見取りを端的にお願いします。

写真は基本1枚です。

【4月～6月】



(年中組)

6月。イモ畑のまわりある、びわ・グミが食べごろを迎えた。真っ赤に熟しているグミの実はとても魅力的である。前年に食べた経験のある年中は、木の周りに群がり、実を採っては口に運んでいる。

ぐみは、渋みのあるぐみだが、ほとんどの子が採っては食べ、を繰り返している。たくさん実のついた枝を切って渡すと、日陰へ行き、数人の友だちと石段に腰かけて、「おいしいね」「こんどはぼくね」などとやりとりしながら、嬉しそうに楽しそうに食べている。グミが苦手な子は、イモ畑に入れない年少児に、フェンス越しに手渡している。食べることができなくても、自分なりに、役割を見つけて楽しんでいく。スーパーには並んでいないグミ。自分たちで収穫して、その場で口にできること、大勢の友だちと味を共有できること、その場だからこそ生まれるやり取りや役割の素敵さを感じた。

【7月～9月】



(年長組)

水着に着替えて水・泥あそびをのびのびと楽しむ中、子どもたちなりに、保冷剤を体や顔にあてたり、水筒の中の氷を口に含んだりして、暑さ対策をしていた。そんな姿を受けて、水泥あそび時に、大きめの氷の塊をいくつか出してみる。冷たさ、感触、水で温まった泥水に溶ける速さなど、試し、楽しみながら遊んだ。子どもの気づきに驚いたり共感したりしながら、教師も楽しんだ。そのうち、かき氷を作りたいという声が出る。かき氷器で削った氷に、好きな色のえのぐシロップをかけて遊ぶと、「本物のかき氷を食べたい」という熱は、さらに高まった。後日、要望に応じて、かき氷パーティーをする。シロップは、6月に収穫し梅を、子どもと一緒に氷砂糖で漬けた梅シロップ（梅ジュースを作って飲む）。子どもの姿や発想からつながっていったかき氷パーティーであった。

【10月～12月】



裏園庭にある柿の木に、たわわに実が実っている。子どもたちは興味津々に、集まり、木に登ったり、脚立に上ったりして実を収穫していく。かじってみると、最初は甘い、徐々に渋味が舌にまとわりつく。それでも甘みを求めて諦めない子は、いくつも柿を口にする。すると、中には、渋味がほとんどなく甘みが強い物があることに気づいた。「外側（皮）や内側の実の色はどうか」「硬さはどうか」一緒に食べては比べてみる。「オレンジのが甘い」「中に、黒いてんががあったら甘い」などと、特徴にも気づいた子は、友だちに選び方をアドバイスもしていた。子どもたちが口にしても大丈夫なものかを大人が把握した上で、子ども自身が試してみる、考えてみる事の楽しさや喜びを感じられるような体験の大切さを実感した。

【1月～3月】



園庭脇の森には、たくさんの小枝が落ちている。散策していると、何者かにかじられたような太めの枝が、落ちていた。子どもたちの中で、ビーバーがかじったのではないかという憶測が広がり、「ビーバーの痕跡」を探したり、ビオトープを探ったり、ビオトープの横に、ビーバーの遊べる池を作ったりする姿が見られた。そうした写真をプリントして紙に貼り、気づいたことを書いて、『びおとーぷしんぶん』を作り、ビーバー目撃談やビーバーの巣の作り方など、情報更新していった。子どもたちが、友だちの考えを否定することなく、意見交換したり、ビーバーの池に手を加えたりしていく様子は、年度末まで続いた。

2 その他（自然体験活動の実施における今年度のプロセス）※記入必須

・ 職員の資質向上について

○令和7年度広島県自然認証団体 保育者等安全管理研修に参加。

自然保育中に会える危険生物から子供の命を守るための「生態に基づく事故予防」と「毒性を踏まえた応急処置」について学んだ。

○ビオトープ観察会（6月・9月）にて、植物、昆虫、危険生物、メダカなどを観察したり、実際に触れたりし、それぞれに専門性の高い講師の先生によるお話を聞く。生き物や植物に対して、より、子どもの興味・関心が高まるような知識やかかわり方を学び、保育に生かしていく。

また、園にある、食べられる木の実や果物の木の剪定や手入れの仕方も教えていただく。遠足では、子どもが興味を持っている自然物にふれられるよう、森林公園や植物公園などに出かけている。

・ 地域との関わりについて

○専門知識のある方に、スズムシやカブトムシの飼育の仕方を相談。園に来ていただき、飼育環境づくりの指導をしていただいている。また、地域の方から、カブトムシの幼虫や成虫をいただき、交配の循環ができるようにしている。

○園内にある森の整備や園庭の木々の剪定、畑の土づくりや畝づくり、肥料のやり方などの助言をいただいている。

・ 保護者との関わりについて

○休日参観で、親子で泥んこ遊びをする。

○園で収穫した玉ねぎ、サツマイモは、家庭に持ち帰る。園の野菜を家庭で食べることで、保護者と、話題や調理の仕方などを共有できるよう考えている。

・ その他

○保護者専用アプリで、園児の自然体験や園の自然の様子を配信。

*より詳しく活動をアピールしたい施設は、ホームページやSNSのURLをご記入ください。

URL	
-----	--